

制作概要

自分の立っている足下の土の中には、どれほどたくさんの小さな生命が存在するのだろう。このミクロの存在を意識した時、同時に自分を包み込む宇宙という大きく広がる生命体、マクロの存在を意識することになった。

厚み2センチ、幅3センチ、長さ20センチ程の大きさのフェルト片をたくさん作り、それらを増殖するように貼り合わせて、全体のフォルムをつくり出した。フェルト片は、染色した羊毛と麻糸を色の層ができるように重ねて、石けん水をかけて手で揉み、固く縮絨させたフェルト板をスライスしてつくる。それらの断面はまるで金太郎飴のようにリピートされるが、手の力加減によって繊維の縮絨具合が違い、全く同じものはいない。それらは固有の表情を持っている。小さな生命の中にも広がる宇宙を見いだすように、1つ1つのフェルト片は作品の単なる部分ではなく、それぞれの生命を表わす小宇宙のように思える。

たくさんの生命が連なり響き合いながら、鳥が飛ぶように、風が吹くように、水が波立つように、大地がうねるように、星が流れるように、草木が伸びるように……宇宙というダイナミックな動きの中に、森羅万象が表われる。そのような思いで制作した。

ミクロとマクロの世界への思いを行き来させながら、制作したいと思っている。

六村 眞規子

— 響く —

「六村 眞規子個展」

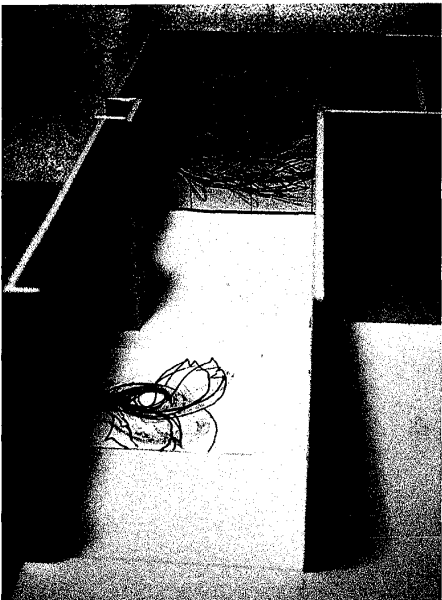
ギャラリーはねうさぎ(京都)



1.羊毛を縮絨させてスライスしフェルト片をつくる



2.フェルト片の断面を貼り合わせていく

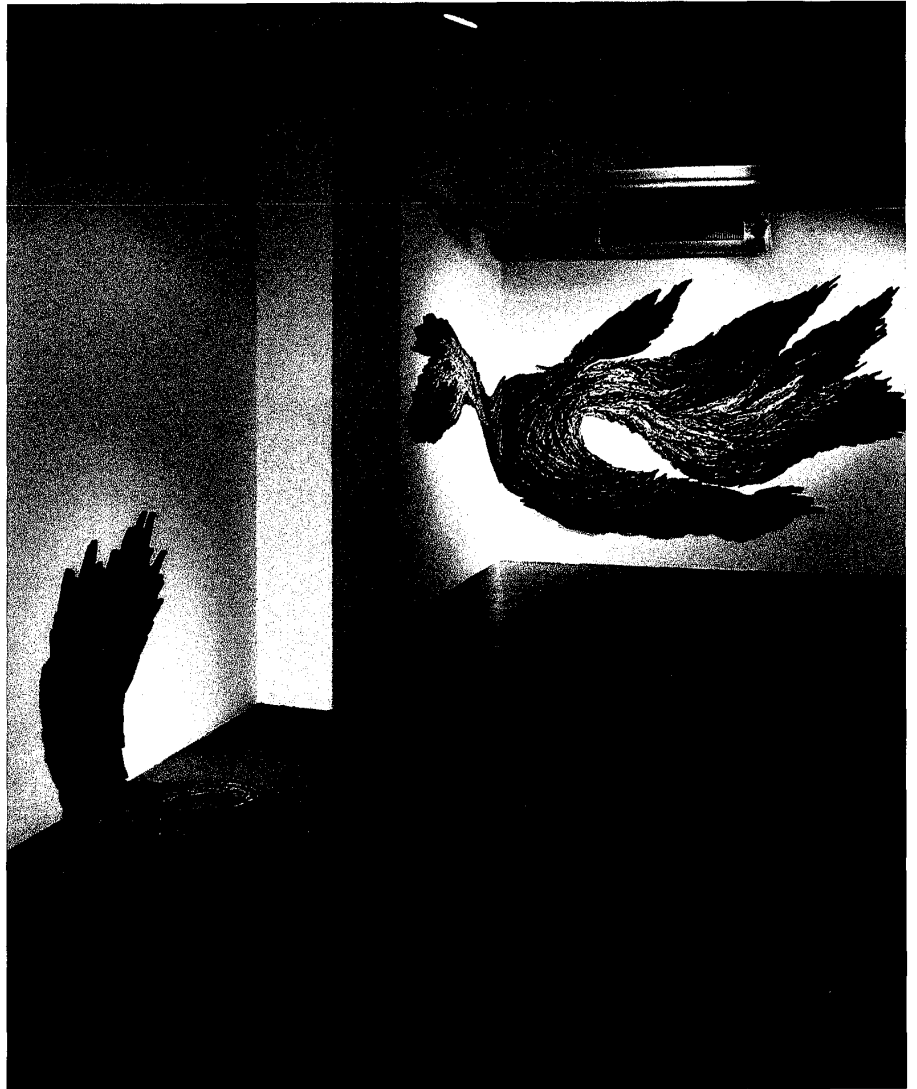
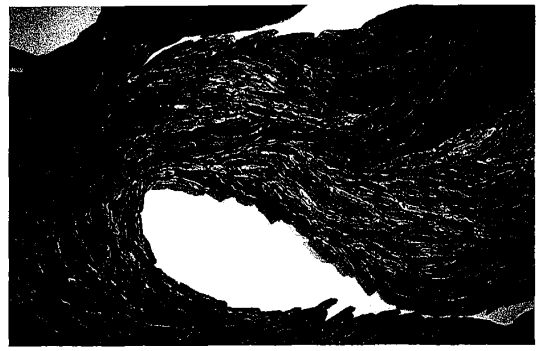


3.模型で空間を把握しながら制作を進める



4.床を這うように設置

5.視点は次の瞬間、次の瞬間へと今を求めて
動き続ける。
小さな動きが大きくなうねりへと流れ出す。
鼓動が響き合い出すように。



6.会場全景



7.壁を這うように設置



六村 真規子

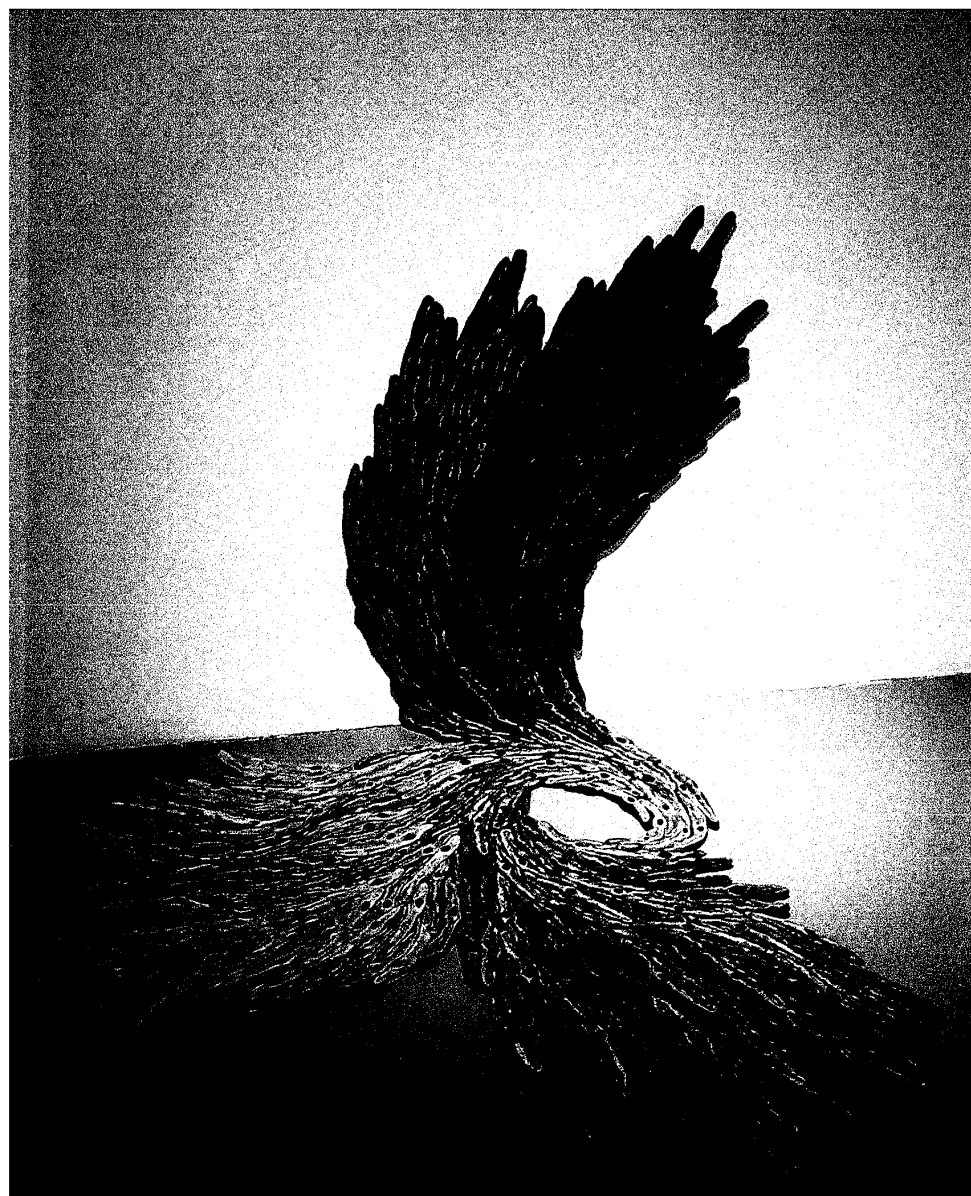
—響く—

2006年

2300×5500×20mmを壁面に添わせ設置

酸性染料・羊毛・麻糸

「六村真規子個展」ギャラリーはねうさぎ(京都)



六村 真規子

—響く—

2006年

2000×1000×20mm

酸性染料・羊毛・麻糸

「六村真規子個展」ギャラリーはねうさぎ(京都)